

詩篇6-10篇 「弱い者をかばう神」

1A 病の悩み 6

1B 苛立ちと嘆き 1-7

2B 聞かれた祈り 8-10

2A 正当な訴え 7

1B 偽りの告発 1-5

2B 正しい審判者 6-17

3A 顧みられる神 8

1B 幼子の賛美 1-2

2B 人の栄光 3-9

4A 義の審判者 9

1B 敵の滅亡 1-12

2B 悪者の墓穴 13-20

5A 神を顧みない悪者 10

1B 神の不在 1-11

2B 立ち上がる主 12-18

本文

詩篇六篇から読んでいきたいと思いますが、これから読んでいく六篇から十篇までは、「弱い者をかばう神」の姿を見ることができます。私たちは午前中に、人の子を顧みてくださる神の姿を読むことができましたが、今から読む所にその主題が貫かれています。

1A 病の悩み 6

1B 苛立ちと嘆き 1-7

6 指揮者のために。八弦の立琴に合わせて。ダビデの賛歌 6:1 主よ。御怒りで私を責めないでください。激しい憤りで私を懲らしめないでください。6:2 主よ。私をあわれんでください。私は衰えております。主よ。私をいやしてください。私の骨は恐れおののいています。6:3 私のたましいはただ、恐れおののいています。主よ。いつまでですか。あなたは。

ダビデは、ここで病に罹っています。衰えております、癒してください、と祈っています。「骨が恐れおののいている」という表現、その骨というのは全身で感じ取っていることの比喻です。私たちはとかく、病に伏すと医学がそれを助けてくれる、救ってくれると思いますが、ダビデの時代はそうではありませんでした。病に罹ると、多くの場合は死と隣り合わせでした。私がいた宣教地では、医療技術が発達しておらず、例えば C 型肝炎で亡くなる若者もかなりの数でいました。ですから、必死に祈り、その祈りが答えられたことによって信仰に至った人の証しも聞いています。

そのような死との隣り合わせの恐れの中で、彼は 1 節で、「御怒りで私を責めないでください。」と言っています。私たちはヨブ記で、このことを学びました。人というのは、病に罹る、また誰かが死んでしまい、不幸が訪れるとそれは自分の罪のせいだと反射的に思います。事実、イエス様が中風の人に対して、「あなたの罪はいやされました。」と宣言されたように、直接的に罪による病はあります。けれども、多くの場合、その痛みによって自分が過去に犯した罪を思い出したりするのです。事実、私たちはみなアダムの子孫であり、彼が罪を犯したので全ての人に病が入り、そして死に至るようになってしまいましたから、罪に対する神の怒りというものを漠然と感じてしまいます。

ダビデは、「いつまでですか」と切なる訴えを述べています。切実な思い、切迫した思いを言い表しています。こうした嘆きは、主に持っていくべき尊い祈りです。切実な思いと祈りをもって、それで癒された人々が多く福音書にはいます。先ほど話した、中風の人を担いできた四人の者たち、十二年長血を患っていた女、カナン人の女で娘が悪霊につかれていました、盲人バルテマイも、人の反対を押し切ってイエスのところに来ました。ヤコブも手紙の中で、私たちにこう教えています。「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。・あなたがたのうちに病氣の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。(5:13-14)」

6:4 帰って来てください。主よ。私のたましいを助け出してください。あなたの恵みのゆえに、私をお救いください。

ヨブと同じようにダビデも、病の中で神の不在を感じていました。「帰って来てください」と言っています。もちろん主はそこに物理的におられるのです、けれども魂を助け、救ってくださるその行動を起こしてくださいとお願いしています。

そして、「あなたの恵みのゆえに」と言っています。ここが大事です、前回私たちは、神は私たちがを義と認めてくださる、聖徒を特別に扱ってくださる、御顔を照らしてくださることを学びました。恵み、ヘセドは、主が愛しておられ、真実を尽くしてくださるということです。決められたこと以上に、その愛の働きを広げてくださるということです。この働きのゆえ、彼は祈りの中で力を得ていきます。

6:5 死にあつては、あなたを覚えることはありません。よみにあつては、だれが、あなたをほめたたえるでしょう。

死の危機に瀕している中で、この祈りを捧げています。陰府とはもちろん、死後に行くところです。死んでしまつては、主をほめたたえることができないではないですか、と言っています。旧約時代には、天における賛美、また復活の希望がそれほど明らかにされていませんでした。ですからここで大事なのは、ダビデが主を覚えて、主をほめたたえることは、ただ自分が行ないたいから、好きだからということではなく、至上命題にしていたということです。彼が生きているのは、ただ主を覚

えて、主をほめたたえることなのだという使命を持っていました。賛美をすることは、付けたしではありません。むしろ、賛美をすることは神からの命令であり、私たちがこの地上にいる目的です。

6:6 私は私の嘆きで疲れ果て、私の涙で、夜ごとに私の寝床を漂わせ、私のふしどを押し流します。6:7 私の目は、いらだちで衰え、私のすべての敵のために弱まりました。

これもヨブと同じように、体の苦しみと痛みのゆえに夜も寝られない程、痛みが走っていました。肉体の痛みに加えて精神的な疲れがあり、そして霊的にも彼は攻撃を受けています。「敵のために弱まった」とあります。これは、神が自分かを顔を背けて、あなたを罪の中で滅びるままにする、という者たちの声です。私たちも肉体や精神が疲れている時に、このような霊的な攻撃が来ます。

2B 聞かれた祈り 8-10

しかし、「あなたの恵みによって」と 5 節で祈ったことによって、またこの嘆きの祈りを通して彼は祈りが聞かれたことを確信します。

6:8 不法を行なう者ども。みな私から離れて行け。主は私の泣く声を聞かれたのだ。6:9 主は私の切なる願いを聞かれた。主は私の祈りを受け入れられる。6:10 私の敵は、みな恥を見、ただ、恐れおののきますように。彼らは退き、恥を見ますように。またたくまに。

ダビデにとっての、切なる願いと呻きは、主が語ってくださるということでした。ヨブと同じですね、彼は主の声を聞いて、それで心が満足しました。そしてサタンを退けることができました。ここでも同じです。主がダビデの声を聞いてくださいました。彼がその瞬間に癒されたのか、その後癒されたのか分かりません。けれども、主が祈りを聞いたのだという、ご臨在を与えてくださったことは確かです。その祈りの答えそのものが、彼に力を与えたのでした。

そして、彼は敵どもを退ける決意も表明することができます。「神に従いなさい。悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。(ヤコブ 4:7)」

2A 正当な訴え 7

7 ベニヤミン人クシュのことについてダビデが主に歌ったシガヨンの歌

これはダビデが、サウルから逃げている時に書き記した詩歌です。ダビデが逃げている時に、サウルのところには、サウルと同族のベニヤミン人が集まっていた(1サムエル 22:7)。サウルは、彼らをなじりました。自分に、ダビデとヨナタンが契約を結んだことなど伝えてくれるものはいない、と言ったのです。そして、私であれば、ダビデと違って畑などの褒美を与えることができるし、あなたを高い位に昇進させることもできるのに、と話しました。それで、ベニヤミン人でクシュという人が、ダビデのことについて、あることないこと話したようです。ダビデは、エン・ゲディでサウルが自分の

いる洞穴に入ってきて、そのまま彼が出ていった後に彼の前に現れて、こう言いました。「『ダビデがあなたに害を加えようとしている。』と言う人のうわさを信じられるのですか。(1サムエル 24:9)」したがって、ベニヤミン人はダビデがサウルに害を加えようとしていると言い含めていたのです。そのことも手伝って、サウルはダビデを追い回していました。

つまり、この詩篇は謂れのない告発、中傷を受けた時に叫んだ祈りです。

1B 偽りの告発 1-5

7:1 私の神、主よ。私はあなたのもとに身を避けました。どうか、追い迫るすべての者から私を救ってください。私を救い出してください。7:2 救い出す者がいない間に彼らが獅子のように、私のたましいを引き裂き、さらって行くことがないように。

ダビデは、敵が追い迫っている中で最も賢いことをしています。「あなたのもとに身を避けました」と言っています。詩篇の中で、「主に身を避ける(2:11)」というのが鍵となっている言葉であることは前回学びました。私たちには、自分たちが幸せ感を持つときに、それは養われているという保障と、もう一つ守られているという保障であると学びました。主ご自身との交わり、関わりが守られる保障となるのです。

そして、その中傷を獅子に例え、獅子が自分の魂を引き裂くと言っています。これが中傷のなせる業です。ダニエル書 3 章で、ダニエルの友人三人がネブカデネザルの立てた金の像を拝まなかった時に、妬んでいたカルデヤ人の役人が、彼らを「訴えた(3:8)」とあります。けれども直訳は、「彼らの肉を食いちぎった」というものです。肉の行いには、不品行や偶像礼拝と並んで、「そしり」があります。これだけ罪深く、悪いものです。

7:3 私の神、主よ。もし私がこのことをしたのなら、もし私の手に不正があるのなら、7:4 もし私が親しい友に悪い仕打ちをしたのなら、また、私に敵対する者から、ゆえなく奪ったのなら、7:5 敵に私を追わせ、追いつかせ、私のいのちを地に踏みにじらせてください。私のたましいをちりの中にとどまらせてください。セラ

ダビデは今、彼らがサウルに言い含めているようなことを行なっているのであれば、それであれば確かに敵によって私を殺してください、と言っています。自分自身の心を調べているのです。「親しい友に悪い仕打ち」と言っていますが、それはサウルのことです。自分の義父でもあったサウル、主君であるサウルを愛し、彼に仕えていました。その彼に悪い仕打ちをしているのであれば、確かに、今、自分は逃げているけれども敵に捕まえられて滅びますように、と言っています。

ダビデは自分が完全無欠だということを話しているわけではありません。主君サウルに対して、今、このように追われるような悪を行なったかどうかについて、自分の手は汚れていないということ

話しています。これを「潔癖」と言いますね、彼は自分自身を調べて、点検していたのです。このことはキリスト者が良心を清く保つことであり、とても大切です。「しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。(1コリント 11:31)」

2B 正しい審判者 6-17

7:6 主よ。御怒りをもって立ち上がってください。私の敵の激しい怒りに向かって立ち、私のために目をさましてください。あなたはさばきを定められました。7:7 国民のつどいをあなたの回りに集め、その上の高いみくらにお帰りください。7:8 主は諸国の民をさばかれる。主よ。私の義と、私にある誠実とにしたがって、私を弁護してください。

ダビデは、主に対して復讐を任せています。前回も学びましたが、ダビデのこの言葉と、敵を愛しなさいというイエス様の命令は矛盾しません。復讐を主に任せることによって、自分の手で復讐することを拒むからです。その時に、彼が抛り頼んだのは、詩篇第二篇に出てきた神の真理です。すなわち、国々が相集まって神とキリストに立ち向かいますが、神は天から嘲笑い、ご自分の怒りで彼らをことごとく打ち滅ぼされます。神が世界的に行われるこの裁きを、今、敵に取り囲まれている自分自身に当てはめて、祈っているのです。

つまりダビデは、神の完成された国、その終わりの日を思いながら今の自分の問題に対処したのです。私たちは、主イエスが間もなく来られるという真理を持っています。これを今の状況に当てはめて、困難を克服するのです。

7:9 どうか、悪者の悪があとを絶ち、あなたが正しい者を堅く立てられますように。正しい神は、心と思いを調べられます。7:10 私の盾は神にあり、神は心の直ぐな人を救われる。

ここの「心」という言葉は、日本語の心よりも思いや意思が含まれています。隠れた思い、と言ったらよいと思います。そして「思い」のほうがむしろ、腹で感じるような、深い感情であります。それを主は調べられる、ということです。ちょうどこれは、ヘブル書 4 章で書かれてある御言葉と同じです。「造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。(13 節)」

すべてのものが神の前でさらけ出されているのですが、神が、キリストが流された血によって、私たちの罪を清め、キリストによって正しいとみなしてください。「正しい神」とありますが、それは私たちを正しいとみなしてくださる神ということです。ですから私たちに必要なのは、自分で正しくなることではなく、自分の心と思いを神に知っていただく、神の光に照らしていただくことであります。これが私たちを義と認めさせるのです。

そして 10 節では、「私の盾は神にあり」とありますが、先週学んだように、神が自分を守ってくだ

さる、防衛して下さることです。このように神を避難所とする者が、ダビデは「心の直ぐな人」と言っています。神の恵み、神が義と認めてくださるところに自分を置いておく人が、直ぐな人です。

7:11 神は正しい審判者、日々、怒る神。7:12 悔い改めない者には剣をとぎ、弓を張って、ねらいを定め、7:13 その者に向かって、死の武器を構え、矢を燃える矢とされる。

主が正しい審判者であります。ヨブ記で学びましたが、この天地を造られて、すべてを治めておられる方は、正しい方であり、その正義によってこの世界を治めておられます。日々、怒っておられるとあります。これは、悪者の悪事を見逃してしまったことはない、すべてを見ておられ、その悪に対して必ず悪によって報われるということです。ですから、私たちはこの真理の中で魂を休めることができます。自分に対して行なわれた悪事、また周囲で起こった悪事、すべての事を神は正しく裁いてくださるということであります。

7:14 見よ。彼は悪意を宿し、害毒をはらみ、偽りを生む。7:15 彼は穴を掘って、それを深くし、おのれの作った穴に落ち込む。7:16 その害毒は、おのれのかしらに戻り、その暴虐は、おのれの脳天に下る。

偽りを生む過程を、赤ん坊が生まれるように表現していますね。にるように、悪意を心に留まらせていると、必ずそれが害毒となって、偽りを生みます。大声でどなっているのではないのに、静かで、丁寧に話している言葉でも人の心を突き刺す言葉というものがありますね。同じことを話しているのに、なぜかある人の言葉は心を和ませ、もう一人の人が言うと心を突き刺します。それは、悪意なのかどうかということです。

そして詩篇の中で何度も出てくる真理があります。それは日本語の表現にもなっていますが、「墓穴を掘る」ということです。自分が相手を陥れようとすると、自分がその罠の中に陥ります。事実、サウルはダビデを何度となくペリシテ人の手に陥れようとしたのですが、最後は彼自身がペリシテ人の手の中に落ちました。自分が悪意を抱いて行った通りに、その悪が自分の身に降りかかるのです。

7:17 その義にふさわしく、主を、私はほめたたえよう。いと高き方、主の御名をほめ歌おう。

すばらしいです、困難な時でもダビデは主をほめたたえられています。これが祈りの力です。そして、この祈りによって確かにダビデは敵から救い出されました。

思い出せば、パウロとシラスも困難な中で祈り、そして賛美しました。ピリピでむち打ちにされて監獄に入れられていた時に、夜に主に祈りと賛美を捧げていました。そして大地震が起こり、牢獄が壊れ、鎖が解かれ、そして看守が自決しようとしたのですが、やめさせました。そして、「主イエスを

信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言いました。そこに、ダビデと同じように、正しい審判者、日々怒られる神がおられたことは確かです。悔い改めない者には容赦なく裁かれる方を、看守も感じたことでしょう。しかし彼は悔い改めました。そして神の憐れみを受けたのです。

3A 顧みられる神 8

8 指揮者のために。ギテの調べに合わせて。ダビデの賛歌

六篇において、神が病の中にある嘆きを聞かれることを読みました。七篇においては、いわれなき中傷に対して、神は擁護してくださる約束を読みました。その背後にあるのは、もちろん神がこのような小さな者たちを顧みてくださっています。このことをダビデは八篇で歌っています。

1B 幼子の賛美 1-2

8:1 私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。あなたはご威光を天に置かれました。8:2 あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました。それは、あなたに敵対する者のため、敵と復讐する者とをしずめるためでした。

幼子のような者たちの口、その賛美の言葉によって、神の国が立てられます。それは告白や賛美そのものに力があるからではありません。自分が積極的に告白すれば、それがその通りなるのだという、偽りの教えがあります。そうではありません、むしろ、偉大なる主の御名に自分のすべてを任せる、主がすべてのことを行なわれるという、砕かれた魂、自分では何もできない、ただ主のみができると認めている人たちのことでもあります。ですから、イエスご自身がそのような敵どもを抑えつけ、打ち滅ぼされるのです。

ですから、本当の意味で私たちの間に祈りと賛美が回復することを祈ります。自分ではなく、神ご自身をあがめるその中で、神が力強く働いてくださいます。

2B 人の栄光 3-9

8:3 あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、8:4 人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは、何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。8:5 あなたは、人を、神よりいくらか劣るものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせました。8:6 あなたの御手の多くのわざを人に治めさせ、万物を彼の足の下に置かれました。8:7 すべて、羊も牛も、また、野の獣も、8:8 空の鳥、海の魚、海路を通うものも。8:9 私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強いことでしょう。

午前中に学んだように、神は人の子、弱い者たちを顧みて、それで万物を治めさせます。幼子、乳飲み子の口によって、力ある者も屈服するようにさせるように、こんなにちっぽけな自分を神は

選び、万物を治めるようにされます。私たちの目が絶えず、貧しき者、弱き者に向かっているでしょうか？

思い出しますが、私がまだ信仰を持つ前に教会に行ってもいいかなあ？と思った人がいました。男性で、何かいつもぶつぶつ言って、もしかしたら精神的に病を持っているのではないか？と思った人でした。あるいは常識のない人、一般社会にあまり適応できていないのではないか、と思ったのです。けれどもあの時に、私は不思議に安心して行けると思ったのです。どうしてか？やはり、キリストをその人に見たのだと思います。この兄弟もキリストに捕えられていると思ったのです。

私たちは、どこかで後ろめたさがあると思います。けれども、その後ろめたさこそ、神に招き入れられた原因なのです。神は愚かな者、弱い者を選ばれました。仮に、その後ろめたさがなくなった、自分の努力で克服したらどうでしょうか？おそらく、その集まりは魅力のないものになるでしょう。いわゆる悪い意味で、きちんとしたクリスチャン、模範的なクリスチャンだけが集まっていれば、そこに神の国の力は現れないのです。

4A 義の審判者 9

9 指揮者のために。「ムテ・ラベン」の調べに合わせて。ダビデの賛歌

第九篇では、ダビデは終わりの日を眺めながら、国々に対する勝利を主に対して歌っています。

1B 敵の滅亡 1-12

9:1 私は心を尽くして主に感謝します。あなたの奇しいわざを余すことなく語り告げます。9:2 私は、あなたを喜び、誇ります。いと高き方よ。あなたの御名をほめ歌います。

九篇は喜びにあふれて、主に感謝している歌です。「心を尽くして」という言葉は、心にあるすべてのものを使って、という意味があります。情熱をもった、自発的な主への感謝です。そして、「奇しいわざ」とあります。私たちの思いをはるかに超えたところで行われる、神の業ですね。私たちは、このような不自然さ、非日常、こうしたところに自分を入れていく必要があります。イエス様が、夜通し釣りをしたペテロに、「網を降ろしなさい」と言われたように、です。信仰によって、入っていくのです。すると、自分の思いを超えたところの驚くような神の御業を見ることができます。

そして「余すことなく語り告げます」と言っています。これは、感情的に語るのではなく、知性を使って、自分の主への思いをいかに語る告げることができるのかを考え、それで余すところなく語り出すのです。福音書というのは、それぞれの著者の語り告げであります。そこに四人の、神に対する感謝の思いが伝わってきます。そして、喜び踊ります。大事なものは、「いと高き」所におられる方に対してであります。地上でどんなことが起ころうとも、高いところにいればびくともしません。そして余裕をもって眺めることができます。私たちの神はいと高きところにおられます。どんなことが

起ころうとも、神は一切、それによって動じることはない方です。

9:3 私の敵は退くとき、つまずき、あなたの前で、ついえ去ります。9:4 あなたが私の正しい訴えを支持し、義の審判者として王座に着かれるからです。9:5 あなたは国々をお叱りになり、悪者を滅ぼし、彼らの名を、とこしえに、消し去られました。9:6 敵は、絶え果てて永遠の廃墟。あなたが根こぎにされた町々、その記憶さえ、消えうせました。

私たちは既に、正しい審判者としての神を見ました。この方が自分の正しい訴えを聞き入れてくださり、敵どもが潰え去る時が来ます。正しい訴えとは、神を信じるがゆえの訴えです。神に対する情熱があるがゆえの訴えです。神ではなく人があがめられる、そのような時に抱く怒りが晴れる時です。そして、滅びは完全なものです。決して思い出されることはありません。

9:7 しかし、主はとこしえに御座に着き、さばきのためにご自身の王座を堅く立てられた。9:8 主は義によって世界をさばき、公正をもって国民にさばきを行なわれる。

神はとこしえの御座に着いておられる方です。私たちは先週木曜日、創世記の初めを学びました。そこは「初めに、神が天と地を創造された。」であります。神は被造物から離れておられる方です。超越しておられる方です。そして、天地創造の前からおられる方です。永遠の御座に着いておられる方なのです。したがって、この方はこの地上で起こっていることがらによって左右されることなく、私たちに介入することのできるお方です。

9:9 主はしいたげられた者のとりで、苦しみのときのとりで。9:10 御名を知る者はあなたに拠り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。

主は悪者を潰え去りますが、虐げられている者、苦しんでいる者を決してお見捨てになりません。虐げられた者、苦しんでいる者とは、神を尋ね求めるがゆえ、神を知らないとする敵どもによって虐げられるということです。そして神を知らないと言い張る世にいたので苦しむのです。神に拠り頼んでいるからこそ、虐げられ、苦しみます。神はこのような人々を決してお見捨てになりません。

9:11 主にほめ歌を歌え、シオンに住まうその方に。国々の民にみわざを告げ知らせよ。9:12 血に報いる方は、彼らを心に留め、貧しい者の叫びをお忘れにならない。

シオンには、神の箱があります。そこに主がおられることを示しています。そして、シオンに主は戻ってきてくださいます。そして、「国々の民にみわざを告げ知らせよ。」とあります。詩篇には、この表現がたくさん出てきます。主に対してほめ歌をうたうだけでなく、まだ神を知らない人々に主を告げ知らせるのです。これは、福音宣教の使命です。私たちは、自分たちの間で主をほめたたえることはとてもすばらしいです。けれども、主の御霊はそこに留まるようにされません。主のことを、

まだ知らない人々に告げ知らせることによって、初めてその喜びを全て言い表すことができます。伝道や宣教は、私たちの信仰生活の付けたしではありません。一部であります。

そして再び、主が貧しい者の叫びを忘れることはないと強調しています。貧しいとは、主がおられなかったら私には何も残らないという窮乏状態です。ですから必ずしも経済的困窮を意味していません。王ですからダビデには財産が多かったと思いますが、それでも自分のことを貧しい者と呼んでいます。

2B 悪者の墓穴 13-20

9:13 主よ。私をあわれんでください。私を憎む者から来る私の悩みを見てください。主は死の門から私を引き上げてくださる。9:14 私は、あなたのすべての誉れを語り告げるために、シオンの娘の門で、あなたの救いに歓声をあげましょう。

ダビデは自分を殺そうと思うほど憎んでいる者から逃げていました。死の門のところまで行きました。けれども今、死の門ではなく、神のおられるシオンの門にいます。この救いをほめたたえています。

9:15 国々はおのれの作った穴に陥り、おのれの隠した網に、わが足をとられる。9:16 主はご自身を知らせ、さばきを行なわれた。悪者はおのれの手で作ったわなにかかった。ヒガヨン セラ

先ほどと同じ、「墓穴を掘る」ことです。主は、悪者に対して、その悪によって滅びることによって裁きを行なわれます。先ほどはサウルがペリシテ人の手にかかったことを話しましたが、典型的な人物はハマンです。彼は自分の用意した杭に突き刺されることになりました。

9:17 悪者どもは、よみに帰って行く。神を忘れたあらゆる国々も。9:18 貧しい者は決して忘れられない。悩む者の望みは、いつまでもなくなるらない。

再び対比です。悪者どもは陰府に下って、忘れ去られます。その悪者というのは、基本的に神を知らない者たち、神を認めず忘れていった者たちです。神を忘れている者は、神によっても忘れられます。しかし、貧しい者は決して忘れられません。その望みも過ぎ去ることはありません。「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。(1コリント 13:13)」

9:19 主よ。立ち上がってください。人間が勝ち誇らないために。国々が御前で、さばかれるために。9:20 主よ。彼らに恐れを起こさせてください。おのれが、ただ、人間にすぎないことを、国々に思い知らせてください。セラ

ダビデの敵は、人間を誇りとする者たちでした。神を誇りとする者がいて、それに対して人間を誇

りとする者たちが挑みかかります。ダビデは物理的に、周囲の国々がいて、彼の国を攻めてきましたが、霊的には私たちは絶えず、神を求めない勢力によって挑まれています。あの手この手を使って、神ではなく人が誇るべきなのだという圧迫を受けているのです。そこでダビデは、主が行動に移してくださいと祈っています。

ですから、正しい訴え、貧しい者の叫びに対して神が応えてくださいます。私たち人間には、この正義に対する非常に大きな叫びがあります。くだらないと思いながらも、勧善懲悪のドラマや映画を見ると、すっきりするのはそのためです。あまりにも世の中が不条理でいっぱいなので、不当に対する正しい裁きが行われるのを見ると、すっきりするのは、この不条理の満ちた世界、ストレスの多い世界の中で、正義を人々は求めています。

しかしキリストを信じた者には、神の正義を求めています。神の御名がほめたたえられることを望んでいます。神の義が明らかにされることを願っています。そうではなくて、人の知恵や人の力、人の正しさが主張される時に、私たちの魂は呻きます。そして叫びます。終わりの日に、富と権力の象徴であったバビロンが滅んだのを、天から見ていた者たちは大歓声を上げました。「ハレルヤ、救い、栄光、力は、われらの神のもの。神のさばきは真実で、正しいからである。神は不品行によって地を汚した大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされたからである。(黙示 19:1-2)」

5A 神を願みない悪者 10

第十篇は、九篇の続きと言われる詩歌です。題名もありません。

1B 神の不在 1-11

10:1 主よ。なぜ、あなたは遠く離れてお立ちなのですか。苦しみのときに、なぜ、身を隠されるのですか。10:2 悪者は高ぶって、悩む人に追い迫ります。彼らが、おのれの設けたたくらみにみずから捕えられますように。

ダビデは、終わりの日を見て、これら高ぶる悪者が滅んでいった姿を見て、九篇では主をほめたたえました。今は目の前に、そうした圧迫が自分の身に押し迫っているのでしょうか。その時に彼が感じたのは、神が遠くに離れて立っておられるというものです。つまり、神がここにはおられない、と感じる時です。これがヨブの感じた苦しみであり、神がおられないというものです。

10:3 悪者はおのれの心の欲望を誇り、貪欲な者は、主をのろい、また、侮る。10:4 悪者は高慢を顔に表わして、神を尋ね求めない。その思いは「神はいない。」の一言に尽きる。10:5 彼の道はいつも栄え、あなたのさばきは高く、彼の目に、はいらない。敵という敵を、彼は吹き飛ばす。10:6 彼は心の中で言う。「私はゆるぐことがなく、代々にわたって、わざわざに会わない。」

神を全く介することをしない、高慢な心の表れです。神はいないとする者たちが、それとなく幸せに暮らしています。それで、自分はこのように長らく幸せに暮らすのだ、災いは来ないと豪語している姿です。私はここに、日本の姿をみます。自分たちだけでできる、そして日本はこれからも豊かに暮らしていけるであろうというものです。今の楽しみだけで生きているので、そうした夢のような、幻想のような世界で生きることができています。

10:7 彼の口は、のろいと欺きとしいたげに満ち、彼の舌の裏には害毒と悪意がある。10:8 彼は村はずれの待ち伏せ場にすわり、隠れた所で、罪のない人を殺す。彼の目は不幸な人をねらっている。10:9 彼は茂みの中の獅子のように隠れ場で待ち伏せている。彼は悩む人を捕えようと待ち伏せる。悩む人を、その網にかけて捕えてしまう。10:10 不幸な人は、強い者によって碎かれ、うずくまり、倒れる。10:11 彼は心の中で言う。「神は忘れている。顔を隠している。彼は決して見はしないのだ。」

神への恐れがない姿です。神のかたちに造られた隣人に対して流血の罪を働いていますが、それを神さえも忘れていて、見ていないと嘯っています。手を出していないかもしれないけれども、自分を主張することによって、自分のやりたいことを押し通すことによって、相手に傷がついていると分かりつつもそれを行って、「神は知らない」とうそぶくことはないでしょうか？神に与えられた良心を麻痺させている状態であります。

2B 立ち上がる主 12-18

10:12 主よ。立ち上がってください。神よ。御手を上げてください。どうか、貧しい者を、忘れないでください。10:13 なぜ、悪者は、神を侮るのでしょうか。彼は心の中で、あなたは追い求めないと言っています。

「立ち上がってください」という言葉ですが、これは神が行動に移してくださいという願いであります。イスラエル人がエジプトで苦しんでいた時に、神はアブラハム、イサク、ヤコブへの約束を思い出され、それで彼らを苦しみからの奴隷状態から救い出されましたが、そのような行動であります。イエス様は今は、神の右の座に着いておられます。イエス様が来てください、と願うのは、イエス様がその御座から立ち上がられて、ご自分の敵を足で踏みつけてくださいという願いであります。

10:14 あなたは、見ておられました。害毒と苦痛を。彼らを御手の中に収めるためにじっと見つめておられました。不幸な人は、あなたに身をゆだねます。あなたはみなしごを助ける方でした。10:15 悪者と、よこしまな者の腕を折り、その悪を捜し求めて一つも残らぬようにしてください。

先ほど、神は日々怒る方であるとありましたが、神はいつも悪者の害毒と苦痛を見ておられます。私たちが苦しい時も、神に忘れられていると感じる時も、神はずっとその害毒と苦痛を、御手の中に抑えて、じっくりと見ておられました。だから容赦ない裁きを行なってくださいます。不幸な人、み

なしごは自分で手を出すことはできません。そんな力は持っていません。だから、主がへし折ってくださいとお願いしています。

そして、ここまでしっかりと復讐を主に任せる祈りを捧げているから、次の祈りがささげられています。

10:16 主は世々限りなく王である。国々は、主の地から滅びうせた。10:17 主よ。あなたは貧しい者の願いを聞いてくださいました。あなたは彼らの心を強くしてくださいます。耳を傾けて、10:18 みなしごと、しいたげられた者をかばってくださいます。地から生まれた人間がもはや、脅かすことができないように。

主に対する訴えは、このようにして聞かれます。それがたとえその時に実現しなくとも、終わりの幻を今、見ることができるようにしてくださるので心が強くされます。ここに私たちの力がありません、とこしえの王座を持っておられる神なので、将来のことをまるで今、起こったかのように受け取ることができるのです。これが祈りと賛美の力です。私たちは、将来を今のものとして先取りができます。